

第3学年4組 国語科学習指導案

指導者 高野 伸夫

1. 日時・場所 平成29年6月14日(水) 第5校時 13:35~14:20 3年4組教室

2. 単元名 不思議な世界のとびらを開けよう  
 ~物語の感想を発表して、感じ方の違いを楽しもう~

3. 単元のねらい

(1) 単元目標

ファンタジー作品を、叙述を基に想像して読んだり、感想を話し合ったりして一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。

(2) 指導事項：読むこと

ウ. 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

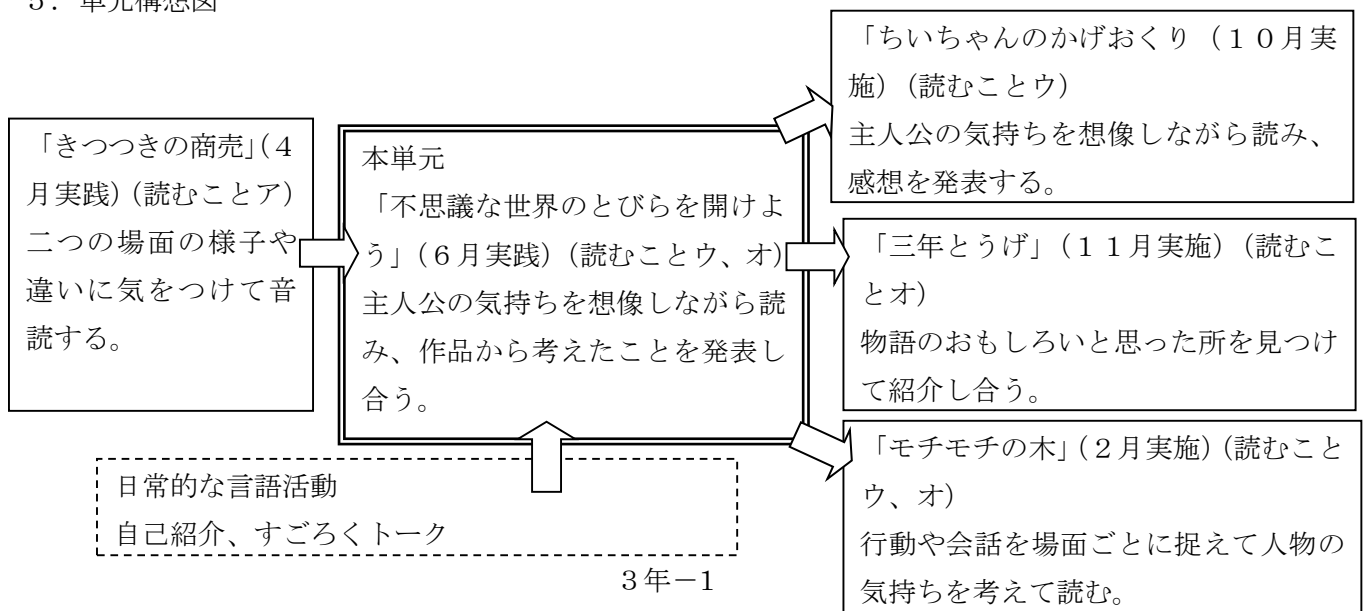
オ. 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いのあることに気付くこと。

(3) 言語活動 主人公の気持ちを想像しながら読み、作品から考えたことを発表し合う。

4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語を読んで、好きなのところや心惹かれるところに注目しながら感想を述べようとしている。	・場面の移り変わりに注意しながら、主人公の気持ちの変化について叙述を基にして想像して読んでいる。(ウ) ・物語を読んだ感想を発表し合い、一人一人の感じ方に違いのあることに気付いている。(オ)	・意味の分からない言葉について、辞書を利用して調べている。(イ(カ))

5. 単元構想図



## 6. 単元設定の理由

### (1) 児童の実態

学習に対しては、まじめに取り組むことができる児童が多い。4月に行った「きつつきの商売」の音読発表会ではグループごとに役割を分担したり、読み方の工夫をしたりして取り組む姿が見られた。しかしながら、いざ本番となると緊張のためか、生き生きと表現をしていた児童は少なかった。お互いの考えを発表し合い、感想を話し合う活動を他教科でも行い、お互いの考えを表現して、それを聞き合うことの楽しさを感じられるように取り組んでいる所である。

読書の実態としては、まだ自主的に自分で本を図書室から借りにいたり、家から持ってきたりする児童は少ない。教師やボランティアの読み聞かせは、楽しみながら聞く様子は伺えるので物語の面白さは感じている。

### (2) 学年の目指す子ども像と本単元について

- ・自分の考えを、筋道を立て相手に伝えたり、自分の考えと比べて同じ所や違う所を伝えたりすることができる
- ・お互いの考えや意見の良い所をすすんで見つけようとする事ができる

本単元では友だち同士で物語から感じたことを発表し合う時間を設定している。全く同じように読む児童は恐らくいないであろう。一人一人が異なる読み方や、感じ方をするはずである。授業を通して、その違いに気づき、そしてそれを肯定的に受け止められるようにしたいと考えている。指導をする際には、「一人一人の違いを大切にすること」そして「なるほど」と思ったことは素直に認め、それを相手に伝えることに留意して授業を進めていくようにする。

### 【研究内容1】主体的な学習を促すための言語活動の設定

#### ○課題設定とそれを解決するための全文読み

今回、初発の感想をもとに課題設定をする活動を試みる。ファンタジーの物語は子どもたちの興味を引くものだと考える。教師の読み聞かせを聞いた後の感想を課題設定に生かすことで、子どもたちの学習への意欲を強化したい。そして、その課題は物語全文を通じて解決されるようなもの、一人一人の読みの違いが現れるものを設定したい。子どもたちの感想と、教師側のねらいをうまく調整しながら課題設定を進めていきたい。

#### ○ファンタジーの世界をさらに広げる

3次では、ファンタジーの物語を二つ用意して、その両方を読み、どちらが自分は面白かったのかを選ぶ活動を行う。今まで2次までの読み方を活用して読み進めていき、3次で物語の読み比べをすることは、自分の読み方と友だちの読み方の違いを感じやすい。その違いを楽しみながら物語の楽しさを味わえることを期待したい。

【研究内容2】確かな言葉の力を育むための指導と評価

◆本単元で評価したい子どもの姿

< 1 時間目 >

単元に入る前に、朝の読み聞かせで共通教材とは異なる物語を読み聞かせた上で、1時間目に入る。ファンタジーのお話とは「不思議な世界に入っていくお話なんだ」ということを分かった上で「もうすぐ雨に」を読ませていく。そうすることで「どこから不思議な世界に入ったのだろう」「動物の言葉が分かるようになったことが面白いな」といったようなファンタジーの面白さに興味を持てるようにしたい。

「ぼく」がカエルを助けたことで、動物の言葉分かるようになった所が面白かったです。



トラノスケの言葉がどうして「ぼく」は聞こえなくなったのかな？



ファンタジーの物語の面白さや不思議な所を見つけている。【関】

< 4 時間目 >

「ぼく」が動物の言葉をどの場面から信じ始めたのかを「信じる曲線」で表していく。場面の移り変わりや、「ぼく」の心情を表現する叙述に注目したり、友だちの意見を聞いたりすることで、「ぼく」の気持ちの変化を読み取れるようにしたい。

4場面の「じっけん、じっけん」という言葉から、「ぼく」は信じ始めたんじゃないかな。



4場面の「やっぱり」という所からだと思います。「やっぱり」ということは、「そうだ！」って強く思う感じがするからです。



主人公の気持ちを、叙述を元に想像しながら読んでいる【読ウ】

< 7時間目 >

2次までの学習を活用して、自分が選んだ本についての感想を交流する。子どもたちは、今までの学習で一人一人の読み方の違いに気づいている。意欲的にその違いを楽しもうとする姿を期待したい。

不思議な世界の「入り口」と「出口」が〇〇さんとは違ったな。もう一度、お話を読んで考えてみたいな。



主人公の気持ちが〇〇さんと同じ意見で嬉しかったです。理由もいっしょでした。お話ができて楽しかったです。



物語を読んだ感想を発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気づいている【読オ】

【研究内容3】日常的な言語活動の継続

「ことばタイム」を使って、4月はお互いの自己紹介を行なった。テーマは「好きな教科」「好きなスポーツ」など簡単なものである。子どもたちは初めて同じクラスになった子もいたこともあり、お互いに自分のことを楽しそうに話していた。5月はすごろくトークを行った。出た目の数によって話すテーマが変わるものである。こちらも

お互いの話を楽しみながら聞く雰囲気を授業の中でも育んでいきたい。

7. 学習計画（7時間）

次	時	評価規準【】 ☆評価方法	○学習活動	・指導上の留意点
	朝読書の時間		○担任がファンタジーの本を読み聞かせる ○「ファンタジー」について説明をする ・不思議な世界が広がっていくこと ・不思議な世界の「入り口」があることを伝える。 ○面白かった所とその理由を聞く	・理由が話せない児童には、面白かった所だけでも良いことを伝える
一	1	ファンタジーの物語の面白さや不思議な所を見つけている。 【関】 ☆ノート	ファンタジーの世界を楽しもう ○担任の「もうすぐ雨に」の読み聞かせを聞く ○新出漢字の練習 ○一人読みをしながら、最初の感想を書く。 ・感想の視点としては「不思議に感じた所や、よく考えてみたい所」、「おもしろかった所や、好きな所」の二つの視点で書くように伝える。	・なかなか書けない子には「不思議に感じたことや、よく考えてみたい所」に線を引くように伝える。
	2	意味の分からない言葉について、辞書を利用して調べている 【言イ（カ）】 ☆ノート	○感想交流から出てきた意見をもとにして、学習計画を立てる。 ○難しい言葉の意味を調べる	・子どもと確認しながら単元全体の計画を確認する。 ・子どもの感想の中で「不思議に感じた所、よく考えてみた所」の中で多かった意見をプリントに印刷して配る。
二	3	場面の移り変わりを登場人物やセリフを見つける事で理解して	どうして「ぼく」は、トラノスケの言葉が分かるようになったのだろう。 ○登場する生き物は何種類か、順番に見つける。 ○生き物が出てきた順番と、みんなが同じことを言っているセリフを見つける。 ○「チリン」という音はいつ、聞こえてく	・模造紙に書いて物語の構造図を作る。単元の間、掲示しておく。

	いる【読ウ】 ☆ワークシート	るかを確かめる。 ・ふりかえりを書く。	・「わかったこと」や「思ったこと」を書く
4	主人公の気持ちを、 叙述を基に想像しながら 読んでいる【読ウ】 ☆ワークシート、 ふりかえり	○ワークシートに、「動物が話せることを信じているのかを示す曲線」を書き入れる。  ○お互いの意見を交流する（グループで交流した後に全体で交流する）  ○自分の「信じる曲線」をもう一度考え直す。  ○ふりかえりを書く。	・意見交流をする際には、「どの文章から考えたのか」「どこから強く信じ始めたのか」という視点で交流するように伝える。  ・友だちの意見を聞いて、「なるほどな」と思ったことや自分の意見が変わったことを書くように伝える。
5	物語を読んで感じたことには、 一人一人違いがあることに気づいている【読オ】 ☆ワークシート、 ふりかえり	○「トラノスケが言いたいことは何だったのか？」についてワークシートに書く。  ○「どうしても『ぼく』は、トラノスケの気持ちがわかるようになったのか」自分の考えをノートに書く。  ○グループでお互いの意見を交流する。  ○クラス全体で意見を交流する。  ○ふりかえりを書く	・前時までのワークシートを見たり、教科書を読み返したりするように伝える。    ・友だちの意見を聞いて、「なるほどな」と思ったことや自分の意見が変わったことを書くように伝える。

三	6			
		ファンタジーの世界を広げよう		
	7	<p>物語を読んだ感想を発表し合い、一人一人の感じ方の違いがあることに気付いている【読オ】 ☆観察、ふりかえり</p>	<p>○「海をかつとばせ」「つり橋わたれ」のどちらかを読む</p> <p>○読んだ物語の感想を書く</p> <p>○読んだ物語の感想を交流する</p> <p>○ふりかえりを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次までに学習したことを、視点にして感想を書くように伝える。</li> <li>・読んだ物語が同じ人同士が同じグループになるように事前に計画しておく。</li> <li>・友だちの感想を聞いて自分とは違うことや、考えが変わったことを書くように伝える。</li> </ul>

8. 本時の展開 (4/7)

(1) 目標 「ぼく」の気持ちの変化を、叙述を基に想像しながら読むことが出来るようにする。

(2) 展開

評価規準【】 ☆評価方法	学習活動 ・期待する児童の様子	・指導上の留意点 ●支援
主人公の気持ちを、 叙述を基に想像しながら 読んでいます  【読む】 ☆ワークシート、ふりかえり	1. 本時のめあてを確認する。	
	「ぼく」の信じる曲線を書こう	
	2. 信じる曲線をワークシートに書く。 ・だんだんと「信じる」方に、線が、上がっていく。 ・途中、「ぼく」が少し迷っている部分がある。	・「動物が話すこと」に対して、「ぼく」が信じるか、信じていないかという視点で書くことを確認する。 ・曲線が変化する時に、根拠とした叙述を書き抜くことを伝える。
	3. グループごとにお互いの考えを交流する。 ・最初と最後の方は、みんな同じような線だね。 ・「やっぱり」って「ぼく」が言っている所から信じるようになったと思う。 ・「ぼく」が「もうすぐ雨に」って言っている場面では、もう強く信じていると思う。	・自分と似ている所、違う所を見つけること、どこから「ぼく」は動物の言葉を信じ始めたのかについて話し合うように伝える。 ●「信じる曲線」が完成していない子は、友だちの曲線を参考にして考えても良いことを伝える。
	4. クラス全体でお互いの考えを交流する。 ・前に書いてある線と同じで、最後は信じるようになったと思う。 ・信じ始めた場面が違って、実験を始めたあたりじゃないかと思う。	・2～3人の子どもを指名して「信じる曲線」を書いてもらう。
	5. もう一度、自分の信じる曲線を見直す。  6. ふりかえり ・〇〇さんの意見を聞いて、線の形を変えました。「ぼく」は、実験のあたりから少しずつ信じるようになったのだと思います。	・2回目の曲線は赤で書くようにする。  ・自分の考えが変わったこと、変わらなかったことを視点にして書くようにする。



